

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		一般社団法人クオリティ・オブ・ライフ 中丸支援教室				公表日	2026年 4月 1日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%	0%	学習室と、ダンスを行うブレイルームが分かれている。活動内容に合わせて配置を変えて使用できる。
2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。		100%	0%	理学療法士、保育士、児童支援員、児童発達支援管理者、教員免許、等の有資格者を配置。利用者様の人数を見て発表会、運動会のイベントの時には前もって多めに職員を確保している。本社、他教室との連携体制。		
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		100%	0%	建物入り口が階段なので支援員が付き添い、安全確保している。教室内は必要最小限のものを置く。整理整頓して物の居場所を作る。段差には三角スロープを設置している。	階段の昇り降りには細心の注意を払う。	
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		100%	0%	毎日支援前、支援後に手に触れる部分の消毒換気を徹底している。工作の時間に作成した物を壁面に飾り季節感を出す。乾燥する時期は加湿器使用。特性に合わせてスペースを使い分ける。	加湿器は毎日洗い乾燥させる。	
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		100%	0%	学びの場と遊び、活動の場の空間を分けている。気持ち不安定の時感染症の疑いのある時、別の場所必要に応じて事務室等も利用することを共有	全くの個室ではないが、皆から離れて一人になるスペースを確保できる。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	100%	0%	計画、実行、評価、改善の為に常に職員同士話し合い、支援の統一、情報の共有、改善してより良い支援、正しい支援を行うように努力している。	風通しの良い職場。何でも話し合える関係。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	アンケート結果をもとに職員と話し合い、保護者様、利用者様の要望を把握、足りない部分を改善していく。	全ての保護者様に、利用者様に満足のいく教室づくり。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	毎日支援前のミーティングで、本日の予定と前日の反省点を話し合い同じ失敗を繰り返さないように努める。風通しの良い職場環境作り。意見交換しやすい体制を整える。	パート含む支援員全員でミーティングを行う。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	100%	0%	第三者委員会を設置している。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%	0%	外部講師を招いての全体研修、各教室での研修。外部研修への促や研修に積極的に参加する。支援についてのミーティングを行い、最善の統一された支援を行う。新しく配置された職員への研修が自分へのインプットにつながる。	グループワークを取り入れながら実践につながる研修、学びを持つ。常に学ぶ姿勢。	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%	0%	支援プログラムを作成、事業所内で掲示してホームページに公表している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100%	0%	個別支援アンケート、送迎時、面談時にて保護者様、利用者様のニーズを聞き取る。	統一された支援をする。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%	0%	利用者様の生活の質の向上の為に、統一された最善の支援を行う。担当者会議（ミーティング）を定期的に行い支援内容や課題の共有をしている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%	0%	サービス等利用計画書を基に個別支援計画を作成し支援員に周知している。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%	0%	保護者様から提出されたWISKアセスメントツールを使った結果や、事業所独自のアセスメントツールや、利用者様の日々の様子、ニーズ、保護者様のニーズからアセスメントをし状況把握に努めている。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%	0%	個別支援計画は「5領域についての本人支援」「家族支援」「移行支援」「地域連携・地域支援」等の項目をサービス等利用計画を基に作成し、具体的な支援内容も設定している。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%	0%	統一された支援の為に情報共有、申し送り等でチームの考えを一致させる。全員で話し合いをして変更、決定する。		

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%	0%	カリキュラム委員会、企画課、教室でのミーティングを通して利用者様個々が楽しめる活動を立案、実施している。季節のイベント、工作、飾り付けを行い季節を感じる。個々の特性反応を見ながら活動内容を調整している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100%	0%	個別支援計画に基づいて当日の状況、体調に応じて個別活動、集団活動において支援する。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%	0%	毎日ミーティング実施。全職員で共有できるように記録に残している。前日に送迎やカリキュラム内容を周知準備。送迎に間違いのない事を確認。長期休みには朝の会時に申し送り、注意事項、変更点を周知チーム連携の強化。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%	0%	支援後送迎の為全員では集まれないがメールや電話等でその日のうちに報告連絡相談して共有改善する。次の支援からより良い支援を心がける。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%	0%	モニタリングシート、支援記録を毎日記入。問題点を見つけて改善の為話し合いをしている。当日の流れ、前日の反省を毎日支援前に行っている。ヒヤリハット等の報告書を共有して再発防止や支援の改善に努めている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%	0%	定期的にモニタリングを行い変化、ニーズ、課題点、目標を知る。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	100%	0%	「自立支援」「多彩な遊び、体験活動」「地域との交流」「こどもが主体で活動」自己決定、自己選択して、こども主体で考える。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100%	0%	自己選択、自己決定することが習慣になるように些細なことから自分で決めて行動することを実践していく。行動には結果があり、責任が伴うことも併せて知らせる。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%	0%	相談支援事業所の求めで学校、他施設に向向き、本事業所の児童発達支援管理責任者が本児の様子を書面で持参しサービス担当者会議に参加する。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%	0%	緊急時対応マニュアルに記載して緊急時にも適切に対応できるように職員間で共有している。	医療的ケアの必要な利用者はいない。必要な時には主治医、家庭と密に連携する。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	100%	0%	学校、本事業所での様子を送迎時に担任と情報共有してこどもの状況把握や支援に生かしている。家庭、学校と連携して下校時間の変更確認対応する。トラブル発生時にも迅速に対応する。学校の連絡網を登録ラインで共有。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	100%	0%	移行支援シートを同法人内保育園、子育て支援教室より共有する。体験、見学を通して利用者の様子、ニーズを知る。問い合わせに速やかに対応。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	100%	0%	移行支援シートを作成して、同法人内就労先との連携を密に図る。多事業所に求められた場合にも速やかに対応する。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	100%	0%	児童発達支援センター、社協、児相、相談支援事業所との連携を図り児童発達支援センター主催の研修に参加、相談を行える関係を作っている。	臨床心理士の先生が来所して相談援助を受けられる態勢が整えられている。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域他のこどもと活動する機会があるか。	100%	0%	福祉、看護関係の仕事を目指す学生のインターンシップ、ボランティア活動を受け入れている。シラエラによるサッカー教室を支援学校、普通小学校で開催。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	100%	0%	子ども部会等に積極的に参加。社協主催の研修会にも積極的に参加する。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%	0%	日々の活動中の問題行動は電話連絡をして情報の共有。家と教室での支援方法の共有。送迎時、活動の報告、対話での情報共有、共通理解に努める。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%	0%	面談時、送迎時、相談があった時に保護者の気持ちに寄り添い最大限の支援をする。学校、相談員、他事業所を含めた担当者会議を行い話し合いの場を作る。保護者会を通じてグループホーム、就労についてなどの情報提供を実施。	ペアレントトレーニング等の講習会への促しをする。作業の様子、運動の様子から理学療法士からのアドバイスが聞けるような取り組みをする。臨床心理士の先生の研修への促しをする。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%	0%	契約時、面談時、送迎時等に丁寧に関わり保護者との話しやすい関係作りを行う。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%	0%	アセスメント、日々の関わりの中で保護者様の意向、利用者様のニーズを読み取る。利用者様第一に考える。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100%	0%	個別支援についての年間2回の面談を行い、保護者の意向、ニーズをもとに計画書の変更をして同意を得ている。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%	0%	面談は年間2回の他に求められた時には随時行う。何でも話せる相談しやすい雰囲気作り。相談があった時、気持ちに寄り添い丁寧に対応する。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	100%	0%	父母の会としての活動は保護者様の負担を考えて行っていない。保護者会、保護者選定、お子様と一緒に過ごすイベントを開催して交流する機会を設けている。ぜひ一緒に参加頂きお楽しみください。	作業の様子、運動の様子から理学療法士からのアドバイスが聞けるような取り組みをする。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%	0%	保護者様からのご意見には教室内ミーティングで原因究明、再発防止策を考え迅速に対応。併せて本社に報告し他教室の事柄についても周知して再発防止に努める。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100%	0%	HUGにてくおりにてよりを公開。日々の活動の様子を写真付きで公開。保護者との双方向のやりとりも行われる。インスタグラム、ホームページ等で情報発信している。	自己評価表の結果については毎年4月ホームページに公開している。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%	0%	保護者様からお預かりしている書類は鍵付きの書庫に保管して教室外に持ち出すことがないように配慮している。個人情報取り扱いの同意書を頂き書庫に保管	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%	0%	指文字や簡単な手話を一緒に練習しながら聾学校に通う利用者とのコミュニケーションを教室全体で行う。保護者様にはイベントのお知らせをお手紙やメールで情報共有をする。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	100%	0%	発表会、フェス、イベント等に相談員、学校の先生、他事業所の職員、取引先、研修依頼した外部講師の先生方を招待。ボランティアの学生を受け入れている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%	0%	契約時に保護者に説明。職員は年間に1回は必ず目を通して見直し必要に応じて改定している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%	0%	事業継続計画作成済。緊急時対応委員会、衛生委員会が活動中。年間2回消防署に届け出て避難総合訓練を実施。災害発生時の対応に備えている。通報、避難、消火訓練を行う。消防署から水消火器を借りて消火訓練を行う。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%	0%	契約時、面談時、見学時等にアセスメントを行い服薬、てんかん、アレルギー等の有無を確認している。服薬には服薬依頼書にて保護者とやりとりをする。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%	0%	食物アレルギーがある場合医師の診断でアレルギー票を提出。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%	0%	安全計画を作成しBCP研修、訓練、衛生研修、訓練を緊急時対応委員会の促して定期的に各教室行い、全職員が対応できるよう努めている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%	0%	災害時の安全確保に関して、契約時に保護者に説明。災害時の連絡方法として災害伝言ダイヤルを案内している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%	0%	全体会議、虐待防止委員会で事例の共有、再発防止策の話し合い。自教室では他教室で起きたことを話し合い、同じミス、失敗を繰り返さないよう対策している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%	0%	年間2回の教室内身体拘束適正化・虐待防止研修のうち年1回は外部講師を招いて法人全体で身体拘束適正化・虐待防止研修を行う。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	100%	0%	緊急やむを得ない身体拘束に関する説明・同意書を契約時、更新時に保護者に説明同意を頂く。同意書を用いて教室内研修を行う。		